

令和6年度 くらがり溪谷レクリエーション施設事業報告書

公の施設名称	岡崎市くらがり溪谷コテージ 岡崎市くらがり溪谷キャンプ場 岡崎市くらがり溪谷デイキャンプ場
施設の設置目的、役割	くらがり溪谷の豊かな自然との触れ合いを通じて市民の心身の健全な発達を促進する施設
施設の所在地	岡崎市石原町字牧原日影 6 番地 1 岡崎市石原町字闇苺 69 番地 1
施設規模	敷地面積：26,160.00 m ² 建物面積：1,090.67 m ²
指定管理者	名称：一般財団法人 碧水会 所在地：岡崎市石原町字牧原日影 2 番地 2 代表者：代表理事 寺内 隆
指定期間	5 年間（令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日）

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

◇物品貸出

貸出期間：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月

デイキャンプ場、キャンプ場利用者向けの物品貸出を実施

手ぶらバーベキュー利用者用として、鉄板、網、木炭、トング等をまとめた基本セットを用意した。

◇くらがり溪谷紅葉まつり

11 月 22 日（金）～12 月 8 日（日） 来場者数 約 9,755 人

期間中、溪谷内を巡るスタンプラリーを実施した。

◇定例自然観察会 参加者数 約 130 人

4 月 14 日（日）・5 月 12 日（日）・7 月 14 日（日）・8 月 11 日（日）9 月 8 日（日）・

10 月 13 日（日）・11 月 10 日（日）・12 月 8 日（日）・3 月 9 日（日）

(2) 事業実施に対する自己評価

額田地区観光地化推進協議会に参画し、スタンプラリーを始め、商工会や各種団体と連携して誘客促進に取り組んだ。

今後も、更なる誘客が図れるような事業を計画（展開）していく。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

区分		4年度		5年度		6年度		
		回	人	回	人	回	人	
コテージ	ささゆり (7人用)	66	471	69	474	59	388	
	まんさく (5人用)	69	316	62	298	23	84	
	もみじ (5人用)	68	296	54	229	18	76	
	計	203	1083	185	1001	100	548	
キャンプ	花の木広場	101	239	68	229	95	306	
	花の木広場 (テント)	32	93	24	52	52	113	
	山の家 (梅)	14	128	13	94	14	87	
	計	147	460	105	375	161	506	
デイキャンプ	猿神	0	0	0	0	0	0	
	花の木広場	20	118	36	262	40	305	
	バンガロー村	23	189	21	220	23	218	
	追分	屋根あり	1143	6425	1029	6151	1069	6287
		屋根なし	601	2297	573	2307	572	2381
	計	1787	9029	1659	8940	1704	9191	
その他	シャワー施設	99	99	17	17	52	52	
	避難小屋 (花の木広場)	0	0	0	0	0	0	
	計	99	99	17	17	52	52	
合計		2236	10671	1966	10333	2017	10297	

※コテージについては老朽化により使用中止

使用中止時期…まんさく・もみじ：令和6年8月5日

ささゆり：令和7年1月19日

(2) 利用状況に対する自己評価

利用者の大半を占めるファミリー層及び若者のバーベキュー利用者を意識したサービス向上を図り、ソロキャンプなどの新しいニーズにも応えられるような新しいサービスも積極的に実施した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入	施設管理運営	800,000
	利用料金収入	レクリエーション施設利用料 駐車場利用料	15,715,400
	事業収入	物品貸出	1,180,500
	その他収入	利息等	423,884
収入 計			18,119,784
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷 費、修繕費、清掃等委託料、保険 料等	17,137,849
	(うち修繕費)	※精算項目	800,000
	事業費	事業に係る経費	391,735
	その他	本部経費、租税公課等	590,200
支出 計			18,119,784
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

経費の削減は常に意識しているが、施設の老朽化による経常的修繕費、衛生的清掃事業費など施設の安全性と衛生管理のための必要不可欠な経費については削減が困難であるため、それを維持しつつ健全な運営に努める。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

職員はもとより、夏季における短期従業員も親切丁寧な接客を常に心がけるよう指導教育している。また市と連絡を密にすることにより、アドバイスや指導を仰ぐようにも心がけている。

各施設の管理には細心の注意をしながら、利用者に不快や不満が生じないよう安全確保、衛生管理を優先することに努めている。

また近隣の店舗との連携を忘れず、施設利用促進に繋がるよう努める。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

常に利用者（来場者）とコミュニケーションをとるようにし、ニーズを把握するよう心がけている。また他のキャンプ場やアミューズメント施設等の情報を収集し、施設や案内標識の設置方法、職員を含むスタッフの接客（対応）能力の向上を図る等、検討を行うよう努める。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今年度、特に苦情等は無かったが、それらについてその内容の事実確認を含む情報収集並びに分析を即座に行い、迅速に対応するよう日ごろから心がけている。よって、苦情等を受けたことは市とも連絡・調整しながら遅滞なく対応できる体制を整えている。